

公益社団法人高田白木法人会会長賞

「税金が『みんな平等』に使われる世界へ」

安芸高田市立高宮中学校三年 佐々木 悠斗

税金が使われているといえば学校や道路や信号が挙げられると思います。そこで僕は税金について調べました。そのときに学校にあったバリアフリーについてのポスターを思い出しました。そのポスターには「一緒に二階へ登りたい」と書いていた足の不自由な女の子のイラストと、公立の学校のバリアフリーがどのくらいの割合かを示してあるグラフと、エレベーターのある学校の割合のグラフが載っていました。自分はこのグラフを見て、エレベーターのある学校でバリアフリーが進んでいる学校ってこんなに少ないのだと知りました。

公民の授業で税金について学んだとき、一つのビデオを見ました。このビデオの内容は、女の子がゲームを買ったときにお釣りが出てしまい、帰りにお釣りを溝に落としてしまっ、税金がなかったらいいのにと考えながら家に帰っていたら、不思議な鳥に会い、願い事を叶えてあげると言われ、「税金のない世界」にしてとお願いして税金のない世界を体験するというものになっています。その中に「税金はみんなの暮らしを豊かにするためにあったのに」と言っているおばあさんがいました。そこで僕は税金はみんなの暮らしを豊かにするためにあるのに、どうしてこんなにもバリアフリーが進んでいる学校が少ないのかと考えました。みんなの定義は「障害のない人」だけなのではないかとも考えてしまいました。そこで、僕はみんなが楽になるために二つのことを考えました。

一つ目は学校にバリアフリーのものを設置する際や、エレベーターをつける際の補助を今よりも手厚くするということです。それぞれたくさんのお金がかかってしまい、学校側もなかなか購入しようとはならないからです。せめて市に一つはバリアフリーのものが揃ったみんなが楽しめる学校が必要だと僕は考えます。

二つ目は障害のある人に少しでも生活が楽になるような支援をもっと充実させることです。みんなと今まで楽しめなかった分だけは支援をしてあげる必要があると僕は考えます。例えば、足が不自由でもスポーツがしたいのならばスポーツ用車椅子を、耳が不自由なら補聴器や病院の費用を支援すればいいと思います。

この二つをすることで僕は税金の意味を達成することができると 생각합니다。税金がみんなのために使われる社会になり、みんなが同じように楽しく生活できるようになればいいなと思います。